

令和8年春の勲章・褒章伝達式 国立大学元学長やミラノ冬季五輪金メダリストら

令和8年春の勲章・褒章伝達式が5月20日、東京・千代田区紀尾井町のホテルニューオータニで執り行われた。

(53頁に受章者のコメント掲載)
この制度は、国家または公共に対する功勞者、社会の各分野において優れた実績を挙げた者を表彰するもの。令和8年春の文部科学省関係の叙勲関係者は734名で、褒章受章者は37名・2団体だった。

伝達式には、文科省OBや元大学長、元高専校長、今年2月にあったミラノ・コルティナ冬季五輪の金メダリストらが出席し、中村裕之副大臣より勲章・褒章が伝達された。

中村副大臣はいさつで「我が国が今後とも活力ある国家として、引き続き成長・発展を持続するためにも、教育、科学技術・学術、



元武庫川女子大学長の瀬口和義氏に勲記勲章を授与する中村副大臣



瑞中受章の岡正朗元山口大学長と夫人



瑞中受章の佐藤敬元弘前大学長



瑞中受章の上田孝典元福井大学長と夫人



紫綬褒章の日本舞踊家・石川さんとスノーボードの戸塚優斗選手

スポーツ、文化芸術の役割は極めて重要であり、皆さまのご功績はこれらの発展に大いに貢献するもの。皆さまの榮譽に心からお祝い申し上げます」と述べ、祝意を示した。
勲章受章者を代表してあいさつした元山口大学長の岡正朗氏は「急激な少子化の中、さらには人工知能などが急速に発達する中、我が国の未来を創造する人材を育成するためには、幼児教育から社会人教育にいたる切れ目のない教育体制の構築が必要だと言えます。また、混迷する昨今の世界情勢を考えると、国民一人ひとりが良識ある心豊かな社会人、国際人として、世界平和の実現に努めることが必要です。本日の榮譽に報いるために、今後も微力ながら社会の課題解決に貢献してまいります」と力強く語った。紫綬褒章を受章した石川光江さん(芸名・中村梅彌)は「我が国の伝統と歴史において、技と美が重要な要素であることを理解し、それを滞ることなく次世代へ継承し、我が国独自の文化が世界平和に寄与することといたしたい」と述べた。
伝達式後、受章者らは皇居に向かい、天皇陛下からお言葉を受けた。



伝達式に臨む副大臣と文科省幹部ら

